同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局
School of Health Sciences, Shinshu University
第19号　2021年 9月

—目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶 …… 2
濱田州博先生 学長のご挨拶 …… 3
池上俊彦先生 同窓会名誉会長のご挨拶 …… 4
新入教員のご挨拶 …… 5
保健学科同窓会と「竹内松次郎賞」制定の経緯 …… 7
活動支援報告 …… 12
卒業生の声 …… 16
総会記録 …… 18
令和２年度事業報告 …… 19
令和３年度事業計画 …… 20
同窓会役員 …… 20
編集後記 …… 20

2021
第19号

≪続≫～信州大学を、保健学科を襲ったコロナ禍の中でのつぶやき～

信州大学医学部保健学科同窓会会長　川上　由行
（信州大学名誉教授／医学部特任教授（研究））

「ウィズコロナ」とか「アフターコロナ」って耳にしますが・・・・・

新型コロナウイルスSARS-CoV-2は、「N501Y」株を皮切りに次々と新たな変異株を生じ、現在は感染力が水痘や麻疹ウイルス並みの「L452R」株が席捲している。「あと数回の変異で、現行ワクチンから逃れる可能性がある」と、CDCは報じた。感染の勢いに全く衰えはない。「復興五輪」から乗り換えた「新型コロナを制圧した証としての東京五輪」も砕け散り、「安心安全の東京2020」も怪しくなり「全人類の努力と英知により難局を乗り越えていけることを東京から発信」と、キャッチフレーズは苦し紛れに変遷した。緊急事態宣言下にも関わらず強引開催した「東京2020＋1」は、想定通りに感染の第5波をもたらした。

この先、私たちはいつまで新型コロナウイルスと戦い続けるのだろう。日本ウイルス学会設立の1953年以降、「ウイルス」が正式名称になったが、私がこどもの頃はドイツ語音の「ビールス（ヴィールス）」が汎用されていた。外国語っぽく響くウイルスだが、実は英語のバイラスとドイツ語のビールスの中庸に落ち着いた正真正銘の日本語なのだ。

政府やどこかの知事は英語（のような響き）がお好きで、新型コロナに四苦八苦の現状、というか、新型コロナと対峙して過ごさねばならない状況を「ウィズコロナ」と言う。なかなかのキャッチフレーズだ。新型コロナの撲滅は不可能だから、「共生・共存以外に道はない」とでもお考えなのだろうか？　でも、「アフターコロナ」や「ポストコロナ」もセットで出てきますね。

実は、人類は4千万年前からウイルスと共存・共生している、と2010年のNature誌に掲載された。遺伝子総体がゲノムで、ヒトゲノムの8%（約1割）はウイルス由来である。子孫を残すのに必須の遺伝子まであり、何のことはない、新型コロナと同じRNAウイルス由来遺伝子のお蔭で人類の継続性が保障されている。また、ヒト細胞内のミトコンドリアDNAは細菌由来の遺伝子だ。ミトコンドリア無しではエネルギー（ATP）を得ることができず、私たちは一瞬たりとも生存できない。そうです。人類は太古の昔から「ウィズウイルス」、「ウィズバクテリア」なのだ。

新型コロナ感染者数は2億人に達し、死者数は5百万人に迫っている。次々に出現する変異ウイルス株の拡散が大きな懸念だ。収束への活路が見出せない。

また、SARS-CoV-2は保健学科にも多大な影響を撒き散らし続けている。今年度は対面で新入生へ同窓会ガイダンスができたが、新入生合宿研修や夏季休暇中の短期海外研修プログラムは今年度も中止された。同窓会の幹事会や理事会も Zoomやメール審議を余儀なくされ、総会や親睦Tea-Partyは中止せざるを得なく、市民開放講演会は昨年に続き、学生と教職員対象にZoomでの開催となった。そんなコロナ禍でも、保健学科が着実に成果を積み重ねていくことを信じ、その進展に対して、保健学科同窓会は精一杯のエールを送り続けます。

コロナに掻き回される不思議な月日が流れていく。そして、最初の新型コロナウイルス感染患者発生から丸2年を迎える。「アフターコロナ」や「ポストコロナ」はかなり先のことだろう。そして、「ウィズコロナ」が、この先暫くは継続するだろう。「ウィズコロナ」の日々を、しっかり、心して過ごしていきましょう。

信州大学医学部保健学科同窓会報　学長挨拶　2021年

信州大学 学長　濱田　州博

日頃より信州大学医学部保健学科同窓会の皆様には、一方ならぬご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。まずは厚くお礼を申し上げます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度（2020年度）を振り返りますと、感染予防措置のため、信州大学のe-Learningシステム「eALPS」やZoom等のテレビ・Web会議ツールを駆使し、オンデマンド型、同時配信型、あるいは、それらと対面型を組み合わせたハイブリッド型で授業を行ってきました。そのような中で、人と人とが対面で接触する場、特に、学生同士が交流する場の重要性を強く感じています。今年度は、感染には十分に気をつけた上で、全学平均で対面率70～80%で授業を行っております。

今年3月の卒業式は、感染予防措置を十分に取った上で学生のみの出席に限定して挙行することができました。また、2021年度学部入学生向けの入学式も午前と午後の2回に分けて行いました。来賓をお招きせず、ご家族各1名の出席は認めた形をとりました。残念ながら大学院生向けの入学式は見合わせましたが、学長のメッセージをWeb上で動画配信しました。さらに、昨年入学式を行えなかった新2年生（2020年度学部入学生）に対しても学部毎に感染予防措置を十分に行い、14回に分けて入学式を実施しました。今年は、新1年生、新2年生併せて合計で16回入学式を行いましたが、学生の誓いの言葉が素晴らしく、良い区切りになったと感じております。

また、ワクチン職域接種に関しても7月5日から開始し、松本、伊那、長野、上田の4会場で順調に進んでおります。8月10日時点で、学生1,964人、教職員678人が2回目の接種を、学生2,793人、教職員634人が1回目の接種を終えております。

一方、コロナ禍は、依然として学生の経済状況に大きな影響を及ぼしています。2021年度も引き続き学生への支援を行いたいと考えておりますので、『知の森基金へのご寄付』をよろしくお願い申し上げます。

ところで、2021年は干支でいうと辛丑（かのとうし）です。Webページで「辛」の意味を調べると、「思い悩みながら、ゆっくりと衰退していくことや、痛みを伴う幕引きを意味する」と記されております。「丑」は、「発芽直前の曲がった芽が種子の硬い殻を破ろうとしている状態で、種の中に今にもはち切れそうなくらい生命エネルギーが充満している状況」だそうです。ということで、「辛丑」の年は、辛いことが多いだけ、大きな希望が芽生える年になるようです。コロナ禍の困難な状況下、ワクチン接種が順調に進行し、新たな希望の光が差し込むことを期待したいと思います。

信州大学医学部保健学科同窓会に大きな希望が芽生え、益々ご発展なさることを期待申し上げますとともに、関係するすべて皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。私事ながら、9月末で学長任期を終えることになります。末筆ながら皆様のご厚誼に心より感謝申し上げ、また、後任者に対しても変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げて挨拶とさせていただきます。

「同窓会だより」によせて

信州大学医学部保健学科同総会名誉会長　池上　俊彦
（信州大学医学部 保健学科長／看護学専攻 成人･老年看護学領域 教授）

信州大学医学部保健学科同窓会の皆様方には平素より教育、研究および学科運営に多大なるご理解とご支援を賜り心から御礼申し上げます。

昨年来のコロナ禍のため、残念なことに本年度も保健学科同窓会総会は開催されませんでした。大学では学生にとって重要な行事である令和２年度卒業式および令和３年度入学式は、例年と比べ規模を縮小した形ではありましたが無事開催されました。さらに、昨年入学式を開催できなかった令和２年度入学生のための入学式が、学長が各学部学科に出向く形で行われ、保健学科では４月14日に地域保健推進センターの多目的講義室において２回に分けて行われました。簡素ではありましたが、立派な式典でした。１年遅れで学生達はどんな気持ちなのかと思いましたが、終了後は学生同士で写真を取り合ったりして楽しんでいる姿を見て、遅れても開催することの意義を改めて認識しました。

保健学科では本年度前期は感染対策を実施した上で原則として対面で授業を行いました。感染拡大時には座学は遠隔授業になりましたが、実習・演習は実施施設で受け入れてくれる限り、学内入構が許可される限り対面で実施しました。学外の施設では実習受け入れ困難になる時期もありましたが、幸い学内演習は実習の補完も含めて実施できました。

コロナ対策の切り札として期待されたワクチンは、信州大学では６月から保健学科の４年生に対して附属病院の医療者枠での接種が、引き続き３年生、２年生へと拡大し、また７月からは信州大学の職域接種の一環として１年生の希望者へも実施されました。ワクチン接種では、保健学科の教職員も大学あるいは松本市からの求めに応じて市民向け、及び職域接種実施に協力して参りました。このようにワクチン接種は進んでいますが、一方で感染性が増強し、ワクチン接種による感染予防効果を弱めるデルタ株が猛威を奮っており、８月中旬の時点で新規感染者は過去最大となっていますが、ワクチン接種者では感染症の発症も重症化も抑えられています。幸い保健学科の学生の意識は高く、感染者数は限定的でした。

保健学科では、引き続き南校舎内の教育環境整備を部局重点事業の一つに位置付けて、新しい環境での教育・研究環境を整備中です。また、中校舎、北校舎のWi-Fi環境に問題があることがわかり、今年度改修を計画しております。こうした事業には、同窓会から毎年頂戴しております専攻配分の教育・研究経費も自己財源とさせていただいており、大きな支援に重ねて御礼申し上げます。

さて、信州大学はこの10月から中村新学長を中心とする新執行部体制での大学運営がスタートすることとなり、また来年度からは第４期中期目標期間の６年間が始まります。そのような中、保健学科にこれまで以上に求められるのは、医療・福祉・保健の分野において課題解決能力の高い、リーダシップを有する人材養成であると考えます。引き続き同窓会の皆様方には、一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新入教員のご挨拶

着任のご挨拶

進藤　真由美
（看護学専攻　成人・老年看護学領域）

令和3年の4月より、看護学専攻の老年看護学の講師として着任いたしました進藤真由美と申します。実は、平成24年4月から2年間、成人看護学の助教としての勤務歴があります。ご縁あって再び保健学科に戻ることができて大変光栄に存じます。

以前在籍していた頃は、ちょうど保健学科校舎の耐震改修工事前で研究室の引越も経験しました。このたび改修後の白と木材を基調にした校舎に入っての第一声は「明るい！」でした。しかしながら、講義室のナンバリングや研究室の備品からは歴史を感じて懐かしい思い出がよみがえります。

新型コロナウイルス感染症の影響は本原稿を作成している4月現在、まだまだ大きいですが、空き時間や休み時間に研究室の窓から見えるウッドデッキで学生達が自己学習している姿を目にすると、悲観したり泣き言を言っている場合ではないと力づけられます。逆境にあっても、学生の学びを支えるという本分は果たすべく邁進したいと思います。

8年ぶりの保健学科では、新しくなった諸々についていくのが必死ですが、教育にも研究にも、そして社会貢献にも真摯に取り組む教職員の姿勢は変わらないことを日々痛感しています。保健学科の一員として足るように一層精進したく存じます。今後のご指導を宜しくお願いいたします。

新任の挨拶

大澤　玲
（看護学専攻　公衆衛生看護学領域）

今年度4月より、公衆衛生看護学領域の助手として着任いたしました、大澤 玲（おおさわ れい）と申します。この度、母校で教員として働かせていただくこととなり、大変嬉しく思っております。

私は本学を卒業後、松本市で保健師として勤務しておりました。松本市の保健師業務は地区担当制、つまりひとりの保健師が市内の1地区を担当する体制をとっています。卒業したての新人の頃、人口7,000人ほどの地区を任されたときの驚きと責任感は今も忘れません。住民の方の相談にのったり、健康教育をしたりしてきましたが、私の方が教わることばかりで、大変貴重で充実した3年間を送ることができました。公衆衛生活動はすぐに結果が出るわけではなく、100%の正解もありません。そんな中で私自身が大切にしてきた、対象者の目線に立つこと、自分の行動に根拠を持つこと、対象者はもちろん同僚や上司、関係者とのコミュニケーションを大事にすることを、学生に伝えていければと思っております。

数年ぶりに学び舎に足を踏み入れると、学生時代に仲間たちと実習や演習を頑張った記憶が蘇ります。そしてお世話になった先生方と働けることを何より嬉しく感じております。今度は私も先生と呼ばれる立場となり、大きな責任を感じています。まだまだ未熟ですが、保健師として育ててくれた松本市、生まれ育った安曇野市、大好きな長野県がさらに健康で活き活きとしたまちになるように精一杯努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介

安尾　将法
（検査技術科学専攻　生体情報検査学領域）

4月より検査技術科学専攻の教授として着任いたしました、安尾将法と申します。出身は大阪府です。信州大学医学部医学科に進学し、卒業後信州大学医学部内科学第一教室に入局し呼吸器内科学を学び、現在に至ります。

奇しくも前任の藤本圭作先生に社会人大学院生として喘息やCOPD、再生医療の研究をご指導いただきながら、呼吸器内科医として大学病院で臨床医としての研鑽を積む中で、ある患者さんを経験しました。その患者さんはCOPDで診療されていたのですが、経過中に喘鳴と血痰が出現し、結果的に肺癌による右主気管支の狭窄が原因で急速に病状が悪化し帰らぬ人となりました。まだ経験の浅い担当医として、患者さんのこの経過と病状説明を受けていたときの奥様の、気持ちを押し殺すように頷いていた光景が今でも忘れられません。この経験から（中枢）気道の狭窄に対する内視鏡治療にも関心を持つようになりました。結果として中枢から末梢までの気道狭窄、喘鳴に対する診断・治療が私の研究テーマとなりました。

妻と3人の子供との5人家族ですが、上の子2人は大学生で県外に出ています。子供には様々な出来事に興味・関心を持ってもらいたいと思い、ヒントとなる新聞記事を見せたり、ニュースを観ての意見を聞いたりしています。これからは診療に加え、保健学科の学生の教育、研究に携わることになります。これまで培った経験を学生、大学院生と共に発展させることができればと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

自己紹介

山内　一由
（検査技術科学専攻　病因・病態検査学領域）

この4月に奥村伸生先生の後任として着任いたしました、山内一由と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3月までは筑波大学で臨床検査学の教育と研究に従事していましたが、さらにその前は信大附属病院臨床検査部で臨床検査の実務に携わっていました。12年ぶりの信大勤務になります。

臨床検査学は実学です。臨床検査の現場あっての学問です。臨床検査室との良好な関係なくして、質の良い教育や研究を実践できません。一方、現場における人材育成にはアカデミアとの連携が重要です。医療現場が求める課題解決力を兼ね備えた医療人の育成には、研究を通じた卒後教育が不可欠だからです。そして最も重要なのは、卒前教育と卒後教育のどちらにおいても目標とする臨床検査技師像がすぐ身近にある環境で人を育てることです。検査技術科学専攻はその前身の医短衛生検査技術学科さらには技師学校の時代から附属病院臨床検査部と緊密に連携を図りながら、長野県に限らず日本全国に目標となる先輩臨床検査技師を輩出してきました。

臨床検査学教育において信州大学は稀有な存在であり、臨床検査の現場と卒前教育の場がこれほどまでに良好な関係を築いている大学は他にありません。信州大学を離れてさらに強く痛感させられたことです。

信州大学における臨床検査の草創期から脈々と受け継がれてきた教育と研究に対する信念とこの素晴らしい環境を大切にしながら、検査技術学専攻と附属病院臨床検査部の発展の基盤となる人材の育成に尽力してまいりたいと思っております。

保健学科同窓会と「竹内松次郎賞」制定の経緯

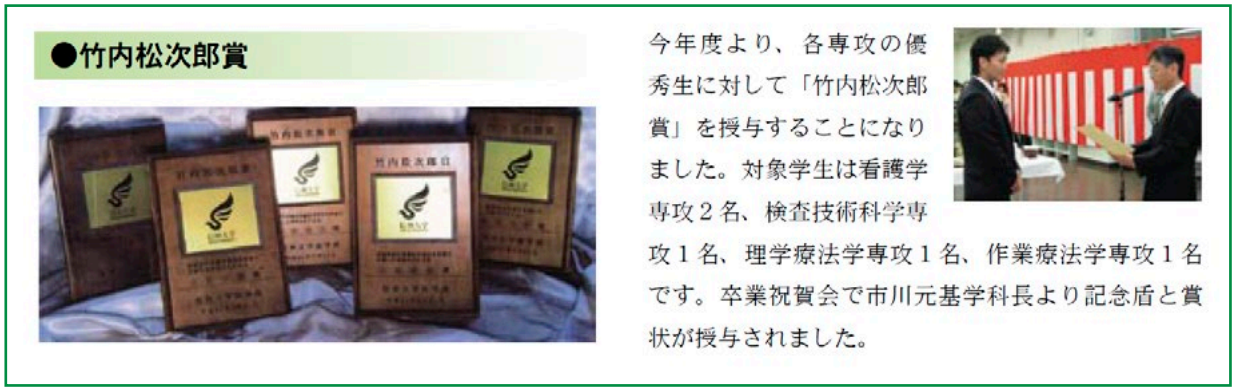
1．はじめに

毎年の卒業時に授与される「竹内（たけのうち）松次郎賞」がある。医学部の各学科および各専攻を首席で卒業する成績優秀学生を表彰するものである。写真左側は第一回授賞式に先立って撮った一枚で、医学科1名と保健学科4名に授与する5帖の盾である。

その「竹内松次郎賞」制定に保健学科同窓会が深く関与することとなった経緯を記しておきたい。まず、保健学科同窓会設立までの概要であるが、信州大学医療技術短期大学部を母体とし、2002年（H14）10月に信州大学医学部保健学科が誕生した。翌2003年（H15）4月の1期生入学の機を捉え「保健学科同窓会」を立ち上げた。医療技術短大部には、学科・取得ライセンス単位の同窓会組織が独自に活動していた。設立年度が古い順に列記すると、(1) 桐の木会（助産師）、(2) 臨嶺会（臨床検査技師）、(3) 州嶺会（理学療法士･作業療法士）、(4) アルプス会（看護師･保健師）である。また、医療短大の教育･学習環境等に資するため (5) 医療技術短大後援会（学生の保護者会と1～4の各同窓会）がバックアップ体制を敷いてきた。保健学科同窓会は、これら4同窓会と後援会の5組織を母体として設立された。

なお、(1)～(4) の同窓会と後援会の5組織と2003（H15）年設立の保健学科同窓会の編年史は、2019年秋刊行された「信州大学医学部設立75周年記念誌」p.213-228の「保健学科同窓会の沿革」（ https://www.mhoken.jp/dosokai/images/ENKAKU.pdf ）に詳述したので一読願いたい。

■2009年3月21日卒業式　（2009年10月発行の同窓会だより 第7号より転載）



文中「看護学専攻2名」は、「看護学専攻1名」の誤記である。5帖の「盾」があるが、医学科１名と保健学科4名の総計5名分の「竹内松次郎賞」の「盾」である。

2．第12代小宮山淳信州大学長の就任から信州大学同窓会連合会の設立まで

保健学科第一期生の入学は2003年4月で、信州大学入学式では第11代森本尚武学長から学長式辞を賜った。そして、同年6月11日に第12代小宮山淳信州大学長が就任した。小宮山学長は就任して直ぐ、2004（H16）年度からの法人化を見据え、敏感に信州大学の応援組織設立へ向け動いた。まず、全学部の同窓会組織に呼び掛け、同窓会連合組織を設立して欲しい旨を表明した。保健学科同窓会からは、川上由行会長（当時保健学科教授で現信州大学名誉教授）と山崎章恵幹事（当時保健学科講師で現清泉女学院大学教授）の２名が代表として出席したが、この同窓会代表者会議は小宮山学長のもとで頻回に開催されることとなった。そして、信州大学が2004（H14）年4月に法人化されるのに呼応して、同年9月には同窓会連合会規約の作成に着手することとなった。この頃から、保健学科同窓会からの役員は川上同窓会長と山崎幹事から奥村伸生幹事（当時保健学科教授で現信州大学名誉教授）へと引き継いだ。そして、信州大学同窓会連合会は、2006（H16）年11月に開催された第1回同窓会連合会役員会において正式に発足した。信州大学は学部

が長野県の北信・中信・東信・南信の4地域に分散する特殊な地理的条件にあり、各同窓会はそれぞれの地域と深く関わりながら発展してきた。信州大学同窓会連合会は、各学部の歴史と特徴を活かしながら、学部間の連携・連帯感を強化しつつ、小宮山学長が呼び掛けた「信州大学の応援組織」としての活動を開始した。発足した同窓会連合会への保健学科同窓会からの役員は、奥村幹事から再び川上同窓会長へと引き継がれて現在に至っている。同窓会連合会を母体とし、2006（H18）年には「知の森基金後援会」と「信州大学校友会（現在の信州大学サポーターズクラブ）」が設立されるなど、信州大学の応援体制が整っていくことになった。

3．信州大学学長賞、同窓会連合会賞、そして成績優秀学生表彰

設立早々の同窓会連合会は、現役生や卒業生の中で顕著な輝かしい業績をあげた個人・団体を表彰する制度を提案し、2004年から小宮山学長により実施された「信州大学学長賞」と重複しないよう配慮して、2008年度から「同窓会連合会賞」受賞者を選定することになった。学長賞も同窓会連合会賞も、社会活動や文化面での著しい活躍や、スポーツ面での全国的あるいは国際レベルでの活躍が対象となっている。ちなみに、平昌冬季五輪の選手団主将で金メダリストの小平奈緒さん（教育学部）らがいるが、医学部・保健学科関係者での受賞者は、昭和伊南総合病院消化器病センター長で内科診療部長の堀内朗先生（イグノーベル賞受賞）と、初代保健学科長で現代俳句協会会長の宮坂敏夫先生（第58回読売文学賞・第19回現代俳句大賞受賞・第21回信毎賞受賞/等々）が同窓会連合会賞を受賞されている。

卒業生はさておき、在校生では「大学生の本文」である学業面での表彰がないことから、学部単位で各同窓会がスポンサーとなり「成績優秀学生」を表彰しようという声が挙がった。そもそも、保健学科検査技術科学専攻では、専攻内教員全員の合意を得て、「臨嶺会（保健学科同窓会分科会で検査技術科学専攻の同窓会）」の主導で、保健学科一期生が入学した2003年には、卒業時に成績優秀学生を独自に表彰しようと動き始めていた。そんな動静の中にいた川上同窓会長は、同窓会連合会での動きには全面的な賛意を表明することとなった。同窓会連合会は、最優秀成績（主席）卒業生の表彰を各学部単位で考えよう、という方向を確認した。これを契機に、いくつかの学部で、この趣旨に沿った表彰制度の制定へと進んだ。

4．医学部における成績優秀学生に対する「竹内松次郎賞」の制定

医学部は、その他の学部に先立ちいち早く、新しい学生表彰の制定へと動き出した。基本的な考え方は、**「医学部を主席で卒業する学生を表彰し、記念品等を贈呈する。なお、表彰に要する費用は同窓会（医学科の松医会と保健学科同窓会）の負担とする。」**というものである。事務方と同窓会（松医会の窪田貞喜会長と保健学科同窓会の川上由行会長）との事前協議で、川上同窓会長は「竹内松次郎賞」が、医学部として授与する賞の名称として相応しいと意見を述べた。

「竹内松次郎」先生は、初代松本医学専門学校長を任命されて東京大学医学部から着任し、松本医科大学への昇格に尽力され初代松本医科大学学長に就任された。信州大学創立にも手腕を発揮され、医学部細菌学教室初代教授、初代医学部長を歴任された先生で、基礎棟南側ケヤキ並木の中に胸像が建立されている。今では聳え立つ巨木のケヤキであるが、竹内先生がご自宅からの若木を学生らと植樹されたものである。

受賞者への記念品は、事務方から提案された『記念メダル』を軸に、松医会の窪田会長と保健学科の川上会長と事務方との話し合いで最終決定することとなったが、松医会の窪田会長は保健学科同窓会の川上会長に総てを一任するという意向を示された。川上会長は事務提案の『記念メダル』に加え『記念の盾』の2候補に絞り、製作費用の見積もりをとった。記念品製作費用は重要な選定資料であり慎重を期したが、最終的には、飾るにはメダルより盾が適していると考えた。価格的にも「盾」がメダルの約半値で製作可能という見積もりであった。メダルの場合、型取りに要する金額が大きく、初回の型取りを我慢すれば、とも考えたが、最終的に「盾」にした。最初の試作段階の見積もり等について次頁に示す。

なお、「盾」文言の「栄誉を称える」は、「もっと相応しい適切な言葉」について考えることにした。医学科とも歩調を合わせねばならないが、保健学科の意見が通るというか、医学科はあまり真剣に考えていないようで、文言についても川上同窓会長に一任となった。同窓会幹事役員各位宛てにメール発信し、「盾の

■試作段階の見積もり等

別紙2
(見積番号 081125)

御見積書

信州大学医学部御中

下記の通り御見積もり申し上げます
納期 デザイン決定後35～45日間
納品場所 貴校
有効期限 平成21年7月25日
支払条件 通常

創業120年
株式会社 武井山三郎商店
代表取締役社長 武井孝夫
松本市庄内1丁目5番1号
TEL：0263-25-0777
FAX：0263-25-0776
E-mail:gift@takeiyama.com
http://www.takeiyama.com
http://www.yamasaburou.com
http://www.shaddy.gr.jp/51000-000/

38,400円　[illegible] 1/年×3年=3個
〇153,600円　[illegible] 4/年×3年=12個

承認印	担当印
(印)	(印)

品名／仕様	数量	単価	金額
表彰「竹内松次郎賞」木製盾	15	12,800	192,000
サイズ. 180×248mm. 厚み20mm			
材料. 本体木製(クルビシャ材). レーザー名入加工			
・アクリル透明 厚み5mm サンドブラスト仕上			
・金属「金」プレート. レーザー名入加工			
名入れ. 木版・金属プレート名レーザー名入加工			
・各個人氏名差し替え名入可			
期日 各年差し替え			
備品. 盾スタンド用支板			
盾入れ紙箱			
包装・のし紙名入完成加工			
		小計	192,000.-
		消費税 5%	込
		税込合計金額	¥192,000.-

備考

■上條途夢さん（信大病院臨床検査部、現在大学院博士後期課程在籍中）が平成30年に受賞された盾

文言」についての意見を募り、最終的には医学科、保健学科の文字を加え、保健学科には専攻名も入れた文言に落ち着いた。

上の写真は、上條途夢さん（信大病院臨床検査部、現在大学院博士後期課程在籍中）が平成30年に受賞された盾で、上條途夢さんの承諾を得て掲載するものである。

まず、医学科と保健学科のそれぞれから成績最優秀（主席）学生各1名を選出し表彰することが事務方から提案された。医学科は主席学生1名の選出は可能で、選出基準を明確に規定すれば、4専攻を擁する保健学科も1名に絞るのは可能では、と当初の「各学科で1名」にこだわる意見が強かった。医学科の主席卒業生1名はさておき、保健学科は、どうしたものかと悩んだ。そして、1名に絞るのは困難と最終的に判断し、各専攻1名で総計4名の主席学生を表彰することを最終案として医学科会議、保健学科会議にかけた。医学科では提案通りに受け入れられたが保健学科会議では混迷した。特に、看護学専攻内から、専攻により学生人数に偏りがあるので、理学療法学と作業療法学では「各1名」、検査技術科学では「2名」、看護学専攻では「4名」の総計「8名」でなければ不公平である、という主張であった。原案は「各学科1名で、要する費用は松医会と保健学科同窓会の折半」だったが、このままでは保健学科同窓会の負担が医学科の8倍になる。学科会議に提出した最終案「各専攻から1名で総

計4名」の4倍負担に決着するまでに、苦しい辛抱の時間を要したのが懐かしく想起される。それでも、事務方から、保健学科同窓会には毎年「松医会」の4倍の費用負担が生じるが、と念を押して下さったのは、赤羽生男医学部副学部長補佐（事務担当）だったが、川上同窓会長は熟慮してGOサインを出した。

5．「竹内松次郎賞」受賞学生の選考方法、表彰状、そして記念の盾

毎年の受賞対象学生の選出には、明文化した「竹内松次郎賞受賞者選考基準」を設けることが必要との指摘があったが、選考基準は明文化せず、「医学科および保健学科がそれぞれ独自に選出する」こととし、保健学科の4名は各専攻に1名の選出を委ねることとした。現在、専攻ごとに微妙に選考基準が異なっているのはそのためである。

なお、受賞者に授与される竹内松次郎賞の表彰状は医学部長名とすることは特段の議論もなく決定されたが、工学部のように学部長名と同窓会長名を表彰状「わかさと賞」に併記する学部もあることを追記しておきたい。

6．おわりに

竹内松次郎賞制定までの経緯の概要を記したが、詳述するにはスペースが足りなかった。「竹内松次郎賞」は、医学科および保健学科の各専攻を首席で卒業する学生の栄誉を称えて授与するもので、医学部在学生の修学意欲を高揚し励ますことを目的とし、2008（H21）年度に同窓会の主導で創設された。2009年の卒業式に第一回の竹内松次郎賞が贈呈されてから、今年2021年にはコロナ禍の中、第13回目の授与式が執り行われ、その模様はZoomで卒業生および教職員へ配信された。

在校生には、「竹内松次郎賞」を目指し、学生の本文である学業を大切に邁進して欲しい、と切に願うものです。

活動支援報告

新入生交流会

例年妙高高原で行っている新入生合宿研修は感染防止の観点から中止とし、本年度は専攻毎に実施することとなりました。4月17日、理学療法学専攻と作業療法学専攻は新入生交流会を行いました。理学療法学専攻は第1体育館にて新入生と2～4学年有志によるレクリエーションを、作業療法学専攻は新入生と教員の松本市内名所巡りグループツアーを行いました。4月19日、検査技術学専攻は旭キャンパスを巡るグループツアーを行いました。看護学専攻はグループごとにキャンパス内のオリエンテーリングを行い、情報共有をはかりました。いずれも人間関係をつくるきっかけになったようです。

▲PT新歓イベント広告

▲学生課外活動（OT交流会）

▲学生課外活動（検査 交流会）

▲学生課外活動支援（PT交流会）

2020年度保健学科同窓会からの支援について報告

2020年度の補助金は検査技術科学専攻で以下の通り活用させていただきました。

1）純粋製造装置：実習用試薬を調整するのに欠かせない純粋装置ですが、これまで使用していた装置がサポート終了、備品製造中止に伴い買い替えました。

2）紫外可視分光光度計：化学反応を色の変化で測定する装置です。従来のものが購入後20～30年経過し劣化が進んでいるため、順次新しくしています。

3）フリーザー（-80℃）：卒業研究などで使用した患者検体は長期間の保存が義務付けられています。保存場所確保のため購入しました。

4）CO2インキュベータ：染色体検査実習や卒業研究での細胞培養に使用しています。30年程使用したものを新調しました。

5）乾熱滅菌器：微生物実習室の骨董品ともいうべき乾熱滅菌器（30年以上使用）をついに新調しました。

6）電子天秤：劣化に伴い新調しました。試薬調整に大活躍しています。

7）実習用椅子：薬品による座面劣化のため、30脚入れ替えました。

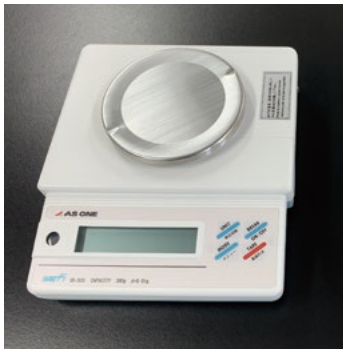
1

2

3

4

5

6


7

品　　目	メーカー
1.　純水製造装置	ヤマト科学
2.　紫外可視分光光度計	島津製作所
3.　フリーザー（-80℃）縦型	日本フリーザー
4.　CO2インキュベータ	PHC
5.　EYELA 乾熱滅菌 NDS520 架台NDS520用　一式	EYELA
6.　電子天秤	アズワン
7.　チェアー	サンワサプライ

特別講演

令和3年6月26日(土)

新型コロナウイルス感染症が蔓延していることを鑑み、昨年に引き続き本年度も市民公開講座としての実施を中止いたしました。

代わりにWeb会議システムを活用して、「がんの当事者から学ぶ『次世代医療』にむけやるべきこと」をテーマに、6月26日（土）に患医ねっと代表・ペイシェントサロン協会会長の鈴木信行先生による講演を行いました。これは学生・教職員向けの講演で、活発な質疑が行われました。

奥村教授･藤本教授　退職最終講義

令和3年3月末をもって、検査技術科学専攻 奥村伸生教授と藤本圭作教授が退職されました。

3月1日（月）に 奥村先生最終講義「故きを温ねて新しきを知る―フィブリノゲン･フィブリン研究の歴史と先天性フィブリノゲン異常症の研究―」が、3月9日（火）に藤本先生最終講義「生理学と共に歩んできた一呼吸器内科医の39年の歩み ―非侵襲的および簡便に生体情報を得る機器の開発を目指して―」が、地域保健推進センター 3階多目的講義室にて行われました。当日はZoomによるオンライン同時配信も行われ、学内外の関係者の方々のご参加をいただきました。

▲奥村教授　退職最終講義

▲藤本教授　退職最終講義

卒業祝賀会・優秀学生表彰

令和3年3月21日(日)

感染症対策を設け、令和3年3月21日（日）キッセイ文化ホールにて信州大学松本地区卒業式が行われました。

保健学科では同日午後保健学科中校舎二階大会議室にて、各専攻の成績優秀学生4名の表彰を、その後専攻別に4会場で卒業証書の授与が行われました。表彰には各専攻主任が列席しました。

▲川上同窓会長、池上学科長、専攻主任と各専攻の成績優秀学生のみなさん
写真前列中央から　看護学専攻・秋場結衣さん、検査技術科学専攻・市川友喜さん、理学療法学専攻・竹内紋子さん、作業療法学専攻・種子雛乃さん

大学院修了者名簿

令和2年度の大学院修了者のうち医学系専攻保健学分野（博士課程）修了者は4名で、学位論文は以下の通りでした。

・佐藤　正彬　さん
Relationship of malnutrition during hospitalization with functional recovery and postdischarge destination in elderly stroke patients
（入院中の急性期高齢脳卒中患者の低栄養状態と機能回復および退院先との関連性）

・山﨑　春奈　さん
A new noninvasive method for measurement of dynamic lung compliance from fluctuations on photoplethysmography in respiration
（光電子容積脈波を用いた新たな非侵襲的動肺コンプライアンス測定法の検討）

・川内　翔平　さん
Metronome-Paced Incremental Hyperventilation May Predict Exercise Tolerance and Dyspnea as a Surrogate for Dynamic Lung Hyperinflation During Exercise
（過呼吸による動的肺過膨張の評価は運動耐容能および呼吸困難感を予測し，運動負荷を用いた動的肺過膨張評価の代替となる）

・岡野　怜巳　さん
Convergent validity of a simplified device and relationship between blood lactate and salivary lactate after a vertical squat jump in healthy non-athletes
（簡易デバイスの妥当性及び健常成人におけるスクワットジャンプ課題後の血中乳酸と唾液中乳酸の関係性）

卒業生の声

「隙間を意識する」

大槻　優汰／看護学専攻 12 期生

信州大学を卒業し４年、私は長野県伊那市で行政保健師として勤務しています。昨今のコロナ禍、それぞれの場所でご活躍の皆様の、日々の多大なご尽力にこの場をお借りし、感謝申し上げます。

私は入庁時から地域包括支援センターに所属し、介護予防事業の運営や、地域づくり、介護保険のケアマネ業務などを行っています。その他、新型コロナウイルスワクチン集団接種における広報や予約支援、接種時の問診などを行っています。

私は日々の業務の中で「隙間」を意識しています。今回は、近況報告として私の心がまえについてお伝えさせていただきます。

保健・医療・介護・福祉の各分野には種々の法とそれに基づく制度が数多く存在し、状況に応じて活用しています。しかし、最近は複合的な課題を有し、制度と制度の隙間に取り残されてしまう事例も散見されます。既存の制度に熟知するだけでなく、あえて制度の隙間を意識することが取り残しに気づく第一歩だと日々感じ、反省と実践の毎日です。

また、個別支援では、支援の距離間について隙間を意識しています。真摯に、熱心な支援をすることはもちろんですが、常に全力では支援者主体になりかねません。専門職だからこそ時には一歩引き、適度な隙間を作ることで、相手が自ら考え行動する主体性を生み、支援者も「まぁいいか。」と心のゆとりをもち、臨機応変な対応につながると思います。

市民と並走し、当市に笑顔が一つでも増えるよう、日々楽しく仕事をしていきたいです。

「近況をご報告します」

宮島　恵理奈／検査技術科学専攻 12 期生

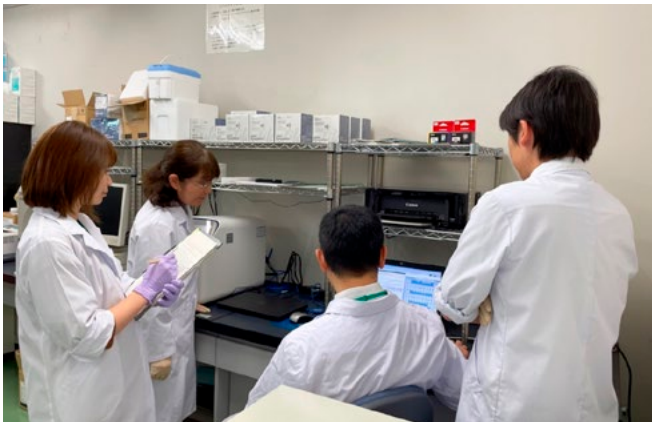
信州大学を卒業し、社会人４年目となりました。わたしは長野市保健所で、感染症や食中毒、ウイルス検査などを行っています。

昨年から世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス。長野市保健所では県環境保全研究所とともに県内で一番初期の段階からPCR検査を実施してきました。当初はコロナウイルス検査において何もかもが初めてであり、また少ない職員で多くの検体数をこなしていたため、時には日付が変わるまで検査に時間を要することもありました。最近は変異株のスクリーニング検査も実施していますが、自動核酸抽出装置や新たなリアルタイムPCR装置を導入したことにより、当初に比べ効率的に検査を行うことができています。

しかし、今現在わたしは一時的に検査から離れています。なぜかというと、昨年結婚し、今は子育てに奮闘しているからです。コロナ禍での出産だったため、家族すら産院に入ることが許されず、退院するまで誰にも会えなくて心細かったですが、無事に元気な赤ちゃんを産むことができました。泣いたり、笑ったり、甘えたり、たくさんの表情を見せてくれる我が子はとてもかわいいです。初めての子育てで慣れないことだらけですが、新米ママとして頑張っています。

この子のためにも、1日でも早い新型コロナウイルスの収束と明るい未来が訪れますように、母として、また、保健所職員として願っています。

以上、わたしから近況のご報告でした。



「プロフェッショナルが集まる現場にて」

中山　貴幸／理学療法学専攻５期生

信州大学を卒業して、ちょうど10年が経ちました。学生時代は、異なる年齢層の同級生が一緒に相談・協力して、努力していた日々がつい先日のように感じられます。仕事の都合上、ほとんど信州に行くことができておらず、先生方や同級生の皆さんとは年賀状の挨拶くらいで、疎遠になっていることが残念です。

私は入学前、そして卒業後、サッカーチームの清水エスパルスに勤務をしております。プロ選手やプロを目指す学生を相手に、整形外科が主ですが、あらゆる分野の知識が必要となります。一番大切にしていることは、障害予防を第一にすること、選手に自己管理能力を身につけるさせることです。治療することよりも、障害を負わせないことです。さらにプロ選手の場合、常にチームの成績、選手が試合に出られないことの損失、その選手の人生（家族）のことも考えています。私たちスタッフも含め、毎年、翌年の仕事が保証されておらず、チームや会社、そして自身の結果・成果に拘ることも非常に重要なのです。勿論、そこに至る過程や経験も大切にしております。

チームや選手のためにも、そして、今まで出会った方々や支えてくれた方々に感謝しながら、恩返しができるよう、初心を大切しながら常に自己研鑽を続けようと思います。いずれ多方面で活躍している仲間にお会いできる日を楽しみにしながら。

「仕事も家庭もチーム連携で」

吉原　絵理／作業療法学専攻６期生

信州大学を卒業し、作業療法士となり早いもので10年目となりました。いよいよ中堅と呼ばれる立場になり、身が引き締まる思いでいます。

私は、卒業後信州大学医学部附属病院に就職し、5年間精神科作業療法士として勤務しました。その間大学院にも進学し、臨床と研究に励む、忙しいながらも充実した日々を過ごしました。なかでも研究チームで立ち上げから取り組んだ気分障害患者に対するリワークプログラム（復職支援）の有効性についてまとめた論文が学術誌「作業療法」の論文表彰で奨励賞を受賞したことは、私の人生の大きな財産となりました。

その後、結婚を機に地元に転居し、現在は精神科単科病院にて勤務しています。急性期から療養、またデイケアや訪問看護等、地域の患者様を支援するため多職種協働でさまざまな取り組みをしています。さらに今年度より作業療法部門のマネジメントを担う役職となり、多職種の方々と顔を合わせる事が増えたことによりチーム連携の重要性を益々実感するようになりました。

また私生活では、2歳の息子のイヤイヤ期と時短勤務からフルタイム勤務への変更のダブルパンチで毎日忙しない日々を送っています。仕事も子育ても悩みは尽きないですが、同じ作業療法士である夫に相談したり協力し合いながら、試行錯誤しつつ過ごしています。

仕事においても家庭においても、チームは大事だなと感じています。公私ともに、周りの人に助けてもらいながら、今後も精進していきたいです。

総会記録

保健学科同窓会総会の中止

保健学科同窓会では、令和3年6月26日（土）に予定されていた総会・市民公開講演会・会員親睦ティーパーティ等の開催可能性について模索してきました。しかし、新型コロナウイルスには収束の気配も見えてきませんでした。このような状況を鑑みて、同窓会幹事会で協議した結果、昨年に引き続いて、令和3年度の総会等の開催を中止せざるを得ない、という判断に至りました。5月25日同窓会HP上に「6月26日（土）同窓会総会および市民公開講演会中止のお知らせ」を掲載いたしました（https://www.mhoken.jp/topics/2021/05/28/1622179021102.html）。

総会時にご協議いただくべき審議事項については、5月26日（水）に開催された「ZOOM 幹事会」で練り上げた議案書を、6月7日（月）～11日（金）に「メール審議」で開催予定の同窓会理事会で審議しました。その結果、提示した全ての議案に対して、理事全員からの承諾を得ました。これをもって同窓会総会の議決といたしました。

令和２年度事業報告

１．在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

１）学生図書購入

２）学術国際交流推進

（シンガポールのシンガポール総合病院、ネパールのスタディツアーの海外研修プログラム、夏期海外プログラム学生受け入れへの支援）

新型コロナ感染症の影響により中止

３）特別講演の開催

・令和2年度　保健学科・同窓会特別講演

期　日：新型コロナウイルス感染対策のため、従来の市民公開の後援会は開催せず学生を対象として1か月限定のオンデマンド動画配信

講　師：芹沢 茂喜さん
（精神保健福祉士・社会福祉士）

テーマ：「ふすまの向こう側 ～ひきこもる彼らと私のものがたり～」

４）実習指導者連絡協議会開催補助

５）卒業式・学位記授与式

・祝賀会補助（新型コロナウイルス感染予防のため中止）

・卒業記念品の贈呈（集合写真）

・竹内松次郎賞記念楯（優秀学生表彰）

令和2年度は医学部保健学科および大学院医学系総合医理工学研究科卒業証書および学位授与式として代表者のみが参加し中2F会議室で行われ、Zoomにて配信された。

６）入試広報活動補助

・オープンキャンパス補助（Zoomによるオンライン配信、保健学科HP内オープンキャンパスサイトにおいてオンデマンド動画）

・各特別選抜試験および一般選抜試験補助

７）学生課外活動支援

・新入生合宿研修補助（新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

・学生への課外活動支援

８）学習環境整備

・学生支援

検査技術科学専攻（純水製造装置、紫外可視分光光度計、フリーザー(-80℃)縦型、CO2インキュベータ、EYELA 乾熱滅菌 NDS520架台 NDS520用一式、チェアー 30脚、電子天秤 1-5164-11 IB-300、メスシリンダー(100ml、200ml)の購入）

９）卒業生を迎えての懇談会（隔年開催）

令和2年度は開催せず

２．保健学科同窓会分科会支援

１）看護学専攻：アルプス会・桐の木会

２）検査技術科学専攻：臨嶺会

３）理学療法学専攻･作業療法学専攻：州嶺会

３．保健学科同窓会の運営について

１）同窓会ホームページの運営

２）同窓会だより第18号の発行

３）同窓会総会および役員会の開催

①令和2年度総会の開催

新型コロナウイルス感染症対策のため、理事会のメール審議による書面評決をもって承認とした

②理事会の開催

令和2年6月17日(水)までの期間でメール審議

③幹事会の開催

・令和3年3月23日(火)17:30～18:30
Zoomによる遠隔会議

・令和3年5月26日(水)17:30から
Zoomによる遠隔会議

４）同窓会事務局の運営

５）信州大学同窓会連合会との連携

信州大学同窓会連合会関係:

・令和2年7月10日(金)～7月22日(水)「第32回信州大学同窓会連合会役員会(メール審議)」(川上会長)

・令和3年3月15日(月)～3月22日(月)メール審議「第33回信州大学同窓会連合会役員会」(川上会長)

信州大学校友会関係:

・令和2年7月13日(月)～7月20日(月)「第7回信州大学サポーターズクラブ理事会メール審議」(川上会長)

６）信州医学振興会支援

７）特別会員の最終講義へのお祝い

「奥村伸生教授／藤本圭作教授」

令和3年度事業計画

1．在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
　1）学生図書購入
　2）学術国際交流推進（シンガポールのシンガポール総合病院、ネパールスタディツアーのプログラムについては中止、招聘講演、夏期海外研修受け入れへの支援）
　3）特別講演の開催
　　新型コロナウイルス感染対策のためweb上でオンデマンド配信 学内限定
　　テーマ「がんの当事者から学ぶ『次世代医療』に向けやるべきこと」
　　講師：鈴木信行さん（患医ねっと代表。ペイシェントサロン協会会長。北里大学、上智大学非常勤講師）
　4）実習指導者連絡協議会開催補助
　5）卒業式・学位記授与式
　　・祝賀会補助
　　・卒業記念品の贈呈（集合写真）
　　・竹内松次郎賞記念楯（優秀学生表彰）
　6）入試広報活動補助
　　・オープンキャンパス補助（Web開催）
　　・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
　7）学生課外活動支援
　　・新入生合宿研修補助（全体での実施は中止。専攻ごとにプログラムを実施し支援）
　　・学生への活動支援
　8）学習環境整備
　　・学生支援：看護学専攻
　9）卒業生を迎えての懇談会補助
2．保健学科同窓会分科会支援
　1）看護学専攻：アルプス会・桐の木会
　2）検査技術科学専攻：臨嶺会
　3）理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会
3．保健学科同窓会の運営について
　1）同窓会ホームページの運営
　2）同窓会だより第19号の発行
　3）同窓会総会および役員会の開催
　　①令和3年度総会
　　令和3年度は総会は中止とし、理事会での書面評決をもって総会決定とする
　　②理事会の開催：年１回（5～6月）
　　③幹事会の開催
　4）同窓会事務局の運営
　5）信州大学同窓会連合会との連携
　6）信州医学振興会支援
　7）特別会員最終講義のお祝い

同窓会役員

名誉会長：池上　俊彦（医学部保健学科）
会　長：川上　由行（医学部保健学科）
副会長：城井　三奈（医学部附属病院）
理　事：
看護学専攻8名
　関　　浩美（医学部附属病院）
　松本　恵美（医学部附属病院）
　赤池　勝美（医学部附属病院）
　白濱　　澪（医学部附属病院）
　三輪百合子（長野県看護連盟）
　坂口けさみ（長野保健医療大学）
　松島みなみ（看護学専攻学生）
　武藤　日向（看護学専攻学生）
検査技術科学専攻4名
　河野　愛未（検査技術科学専攻学生）
　赤羽　貴行（安曇野赤十字病院）
　新井　慎平（医学部附属病院）
　樋口由美子（医学部保健学科）
理学療法学専攻2名
　井上　智巴（理学療法学専攻学生）
　杉田　　勇（諏訪中央病院）
作業療法学専攻2名
　小澤　夏子（作業療法学専攻学生）
　井戸　芳和（医学部附属病院）
大学院（前期）1名
　佐々木友紘（博士前期課程院生）
大学院（後期）1名
　黒部　恭史（博士後期課程院生）

幹　事：奥村　伸生（医学部保健学科）
　中込さと子（医学部保健学科）
　下里　誠二（医学部保健学科）
　柳澤　節子（長野県看護協会）
　百瀬　公人（医学部保健学科）
　横川　吉晴（医学部保健学科）
監　事：務台　　均（医学部保健学科）
　木下　愛未（医学部保健学科）
事務局：中山　秀子

編・集・後・記

これまで国内のワクチン接種が進む一方、デルタ株が蔓延するなか8月には2020東京オリンピック・パラリンピックが無観客で開催されました。テレビ等で観戦された人もいらっしゃるかと思います。9月1日の全国感染者数累計は150万人を超えました。昨年の9月から発足した菅政権は交代となりました。約1年でした。

同窓生の皆さんやご家族など全ての方がワクチン接種するまでもう少し時間がかかりそうです。制限された生活が続きますが、健康を守るためにできることを続けます。

（編集人Y）